



EL SALVADOR

学校名：長岡市立山本中学校

氏名：瀧澤 綾子

〔担当教科：養護教諭〕

- 実践教科等：総合的な学習の時間、学級活動、保健体育
- 時間数：6時間
- 対象生徒：中学3年生
- 対象人数：24人

〔1〕単元名

ともに助け合い、ともに健康に生きる社会を目指して

〔2〕単元の目的/目標（ESDの能力・態度）

- ・人と人との結びつきのためには、互いに尊重し合い助け合う人間関係を築くことが大切であることを理解させる。エルサルバドルと日本の家庭を比較し、それぞれ異なる価値観・社会的背景が存在すること、その反面国は異なっても、家族が協力し合うつながりの大切さは、みんな同じであることを学ばせる。（つながりを尊重する態度）
- ・自然災害に対する備えを自分に関わることとしてとらえ、社会の一員として必要な応急手当の技術と、緊急事態に遭遇した際に適切な行動をとろうとする意欲を身に付けさせる。（進んで参加する態度）
- ・市民一人一人の力を、地球社会の一員としても発揮できることを学ばせ、ワールドワイドな視野を身に付けることにより、生徒が自らの考え方を広げるきっかけをつくる。（他者と協力する態度）

〔3〕ESD（持続可能な社会づくり）の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

- ・国や環境の違いによって、様々な価値観・社会的背景や家族の形、役割分担、ジェンダーの意識があることに気付かせる。【多様性】
- ・様々な違いがあったとしても、固定観念にとらわれることなく、すべての人には公平・公正・平等に生活する権利があることに気付かせる。【公平性】
- ・現在国と国が良好な関係を築くことができている背景には、物質的なやりとりだけではなく、一人一人の人的な連携・協力も大きな役目を果たしていることに気付かせる。【連携性】

〔4〕単元の構成

時間	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【エルサルバドル滞在記！！～JICA「教師海外研修」参加報告会】 ・写真・映像・クイズ等を通して、エルサルバドルという国について知る。 （総合的な学習の時間：全学年）	・エルサルバドルの国旗・伝統食・就労状況等を、クイズを通して知る。 ・日常生活風景・子どもたちの様子・エルサルバドルで活躍する青年海外協力隊員の存在等について、写真・映像を通して知る。	・パワーポイント ・現地からの土産品（教科書・けん玉・とうもろこしすり器等）	・ワークシートの記述の確認 ・学習活動の観察
2	【ともに生きる～ジェンダーの視点から】 ・社会や家庭は男女相互の協力により機能していることを理解し、男女の固定的な役割分担観を見直す機会とする。 ・男女が互いに尊重し合う関係性や、家族間の絆の強さは世界共通であることを考える。 （学級活動：3年）	・事前アンケートにより、自分の中の性役割の固定意識に気付く。 ・各国の性役割意識には様々な価値観・社会的背景・歴史的背景が関連していることを知る。 ・ジェンダーにしばられず、人生を選択したり、家庭で助け合ったりすることが大切であることを知る。	・マッピング ・パワーポイント ・写真 ・ダイヤモンドグラフ ・ワークシート 男女が互いに尊重し合い、家族の一員として生きる	・ワークシートの記述の確認 ・学習活動の観察

3	【自然災害に備えて】 ・自然災害をいつ起こるかわからない自分の問題としてとらえ、正しい判断や緊急時の手当方法の習得といった備えの必要性を理解する。 ・日本と同様に、自然災害の多いエルサルバドルにおいて行われている防災教育等からヒントを得て、「自分もできることをしよう!」という意欲を高める。 ・同じ特徴を持つ国同士が互いに助け合うことの大切さを学ぶ。 (保健体育:3年)	・地震や台風、集中豪雨等の自然災害は、生命や生活に大きな被害をもたらすことを知る。 ・いざという時に適切に対応できるためには、普段からの物品・技術・心構えの準備が重要であることを理解する。 ・社会の一員として、身近な場面で自分ができることを考える。	・パワーポイント ・写真 ・フォトランゲージ ・ワークシート	・ワークシートの記述の確認 ・学習活動の観察
4 5	【自分にもできること～応急手当の方法を身に付けよう!】 ・実習を通して、応急手当が必要な場面での観察の視点や通報の仕方等、状況に応じた対応を行うための判断の基礎を身に付ける。 ・実際に非常事態に遭遇した際には、社会の一員としてすばやくかつ適切に手当を行えるようにする。 (保健体育:3年)	・意識の確認から、呼吸の確認、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの使用までの一連の流れと、それぞれの必要性・手順・注意事項を、実習を通して習得する。	(長岡市消防署の方から協力を得て) ・ダミー人形 ・練習用 AED ・DVD ・ワークシート 市民の一員として生きる	・ワークシートの記述の確認 ・学習活動の観察
6	【社会の一員として生きる～世界で活躍する日本人ボランティアの存在】 ・ともに健康に生きられる社会にするためには、行政機関だけではなく、私たち一人一人が参加し支え合うことが必要であることを理解する。 ・実際に JICA ボランティアとして活動する人々の存在を知ること、広い視野をもって自らの進路を考える機会とする。 (保健体育:3年)	・実際にエルサルバドルで青年海外協力隊・シニアボランティアとして従事している方々の話を聞き、ボランティア活動の意義・国際協力の大切さ・参加の動機・興味をもち始めたきっかけを知る。またそれらを通して、自らの在り方についても考える。	・パワーポイント ・インタビュー映像 ・ワークシート 地球社会の一員として生きる	・ワークシートの記述の確認 ・学習活動の観察

〔5〕授業の詳細

1 時限目:【エルサルバドル滞在記!!～JICA「教師海外研修」参加報告会】

◇全校を対象に「総合的な学習の時間」として授業を体育館で実施した。以下がその内容である。

1. 「JICA」とは? 「教師海外研修」とは?

2. 「教師海外研修」への参加動機

3. エルサルバドルの場所・基本情報

4. エルサルバドルクイズ①

～エルサルバドルの国旗はどれ?(国旗に込められた想い)

5. エルサルバドルクイズ②～伝統食「ププサ」の原材料はなに? (「ププサ」の歌も聞いてみよう!)

6. エルサルバドルクイズ③～エルサルバドルは「中米の〇〇」? (日本との類似性)

7. エルサルバドルクイズ④～日常風景で見られるこの行列は? (治安問題・アメリカへの出稼ぎ)

8. エルサルバドルの医療状況

9. 研修内容の紹介

10. 映像を通して研修時の様子の紹介(中学生のダンス発表・学校での交流・ムービー)

ココがポイント!

☆写真・映像をふんだんに取り入れ、少しでも生徒たちに現地の雰囲気を感じてもらえるよう心掛けた。



<生徒たちのワークシートより(感想)>

- ◆言葉や文化が違っていても、人と人は仲良くなれることが分かりました。瀧澤先生のように自分から心を開いていけば、外国人とか関係なく、相手も心を開いて受け入れてくれることが分かりました。
- ◆私は青年海外協力隊という職業にあこがれていました。そこで今回のお話を聞いて、もっと行きたいという気持ちが高まりました。将来のことを前向きに考え、夢がかなうようにしたいです。
- ◆言葉は通じなくても心は通じ合うことができると思いました。外国の人たちに日本のことを知ってもらえてよかったです。治安について国は頑張って解決しようとしていると感じました。

2 時限目:【ともに尊重し合い、助け合う社会を目指して】

◇「性に関する指導」として、「男女の社会・家庭での性役割意識や実態」の内容を取り上げ、そこに研修での体験・学びを取り入れた。以下が授業の流れである。

1. クラス全体の事前アンケート(「あなたはどのように考えますか? 男女の家庭・社会での役割!」)結果を用いて、生徒たち自身の「性役割意識」を見直してみる。
2. 日本全体のジェンダーに関する意識調査結果を見て、社会的な傾向をつかむ。
3. ジェンダーの歴史的背景を確認する。
4. 「家庭における役割分担」について、グループに分かれ、「生活時間として何に一番時間をかけたいと思うか?」を話し合う。

生活時間の選択肢

…仕事の時間、家事の時間、育児の時間、家族団らんの時間、自分の自由な時間、友人・知人との時間
5. 「家庭における役割分担」を、男女・国で比較してみると、どのような相違点が出てくるのか、具体的な家庭の様子を通して学ぶ。

ココがポイント!

- ☆ジェンダーの長い歴史背景を簡単に説明できるよう、マッピングの手法を取り入れた。
- ☆日本全体の傾向についてはグラフを用いて説明したが、「自分たちが家庭を築いたら…」と、生徒たちにより当事者意識を持たせたかったため、グループ活動を取り入れた。
- ☆両親やエルサルバドルのホームステイ先の方へも同じ質問をし、ダイヤモンドグラフで表してもらい、それを教材として用いた。実際の「家庭における役割分担」について、生の声を届けられたことで、やはり生徒たちの関心も高まり、学びに深みが出たと感じる。

<生徒たちのワークシートより(感想)>

- ◆日本もエルサルバドルも同じような意見をもっていることを知りました。
- ◆もっとたくさんの家族の状況を見たかったです。
- ◆本当は育児に力を入れたいけど、仕事とかが忙しくてできない現実があることが分かりました。僕も将来はそうなるのかなとも思ったけど、育児も一生懸命やりたいと感じました。
- ◆日本と比較して他国は自分の時間も大事にするし、男の人でも育児をする時間が長くていいなあと思いました。
- ◆僕の家は父が外で働いていますが、休日は夕食を作っています。大人になったら、家事ができるように今から母の仕事を手伝っていきたいです。
- ◆エルサルバドルでは父親が出稼ぎに行く家庭もあり、日本と比べると、家族全員で集まることが難しそうな点が残念だなと思いました。



見られませんでした。現実的な意見も聞かれました。時間がないとざっといいます。家族の中で何を一番したいや、つまり

3時限目:【自然災害に備えて～市民社会の一員として、今みなさんができること～】

◇保健体育の＜傷害の防止＞「自然災害に備えて」に関連させ、以下の流れで授業を実践した。

1. 様々な自然災害、自然災害による被害、自然災害の特徴を確認する。
2. 身近な場所のできる備えについて、グループで意見を出し合う。それを発表し合って、クラス全体で共有する。
3. エルサルバドルでの災害対策・防災教育の様子を見て、日本と比較をしてみる。そして国同士が見習ったり、技術を伝えたりと、互いに助け合うことの大切さを学ぶ。

.....
ココがポイント！

☆グループ活動ではフォトランゲージを取り入れ、イメージを膨らませながら、自由に意見を出し合えるようにした。
.....



でい上り身の前しました！
の
にとて周
意見りできる
バラエティ
予想災害対策
していた
に富んに

<生徒たちのワークシートより(感想)>

- ◆エルサルバドルも日本と同じように自然災害のことを一生懸命にやっていることを知りました。
- ◆高学年が低学年に教え合ったり、考えさせ合ったりしていて、そこがエルサルバドルのよいところだなと思いました。
- ◆低学年と高学年が同じグループで活動することで、低学年はよりよい救助の仕方を学べるし、高学年は再確認してこれでいいんだと自信がもてるので、日本も見習うべきだと思います。

4・5時限目:【自分にもできること～応急手当の方法を身に付けよう！～】

◇3時限目の最後に、「これから社会へ出ていくみなさんに身に付けてほしいのが、『周りの人に対して、自分にできることをするという行動力』」、「そして災害時もし目の前で命の危険にさらされている人がいた場合、みなさんができること…それが『応急手当』！」と、次回につながる働きかけを行った。そしてこの時限で、保健体育の＜傷害の防止＞「応急手当の手順」の内容に関連させ、「救急法・AED講習会」を開催した。

1. 応急手当の意義、応急手当を実施した事例、具体的な応急手当の手順等をDVDで確認する。
2. ダミー人形、練習用AEDを用いて、一連の応急手当の流れを習得する。

<生徒たちのワークシートより(感想)>

- ◆応急手当の順序や方法は覚えられても、それを実際にその通りにできなかったり、一つの動作でも抜けてしまったりするとその人の生死につながってくる。その大変さと大切さを感じました。
- ◆今まで心臓マッサージを軽く考えてしまっていたのですが、今回お話を聞いて、その大切さが身に染みて分かりました。教えてもらい実践したことで、しっかりと方法を理解することが出来ました。
- ◆家族が倒れたり、知らない人が倒れていたりしたら、迷わずに自分からその人に駆け寄り、今日習ったことを実際にやりたいと思います。



も見のよ！つとて終った
られました 始れから
にぎやかな
学 互
びを いこはも
大切 び 方 雰囲気
に！ 合 う がいい
姿 が で

6時限目：【地球社会の一員として生きる～世界で活躍する日本人ボランティアの存在～】

◇保健体育の「健康な生活と病気の予防」「ともに健康に生きる社会」の内容に関連させて、授業の内容を検討した。また、将来歩む道を本格的に考え始める中学3年生が、「国際協力にかかわる職業」を一つの選択肢として考えられるよう、以下の流れで授業を実施した。

1. 今までに参加したことのあるボランティア活動を思い出させ、まず身近なボランティアからイメージを膨らませていく。
2. ボランティアの定義、語源について確認する。
3. エルサルバドルという、世界を舞台に活躍する青年海外協力隊の存在を伝え、実際の活動内容をパワーポイントで紹介する。さらにインタビュー映像を上映し、参加に至るまでの道のりや、活動にかけ
る思い、そして中学生へのメッセージを伝える。

ココがポイント！

☆授業の最後のムービーでは、青年海外協力隊員の活躍だけでなく、自分の道を歩み始める生徒へのメッセージも取り入れ、写真・曲とともに流した。

<生徒たちのワークシートより(青年海外協力隊員へのメッセージ)>

【千村友輝隊員へ】

◆小さい頃から海外に興味をもち、高校生という若さで留学という難しいことをされたという話を聞き、驚くとともにとてもあこがれました。

◆外国をよりよくしたいと決意し、それを行動に移していてすごいと思いました。

【原まみほ隊員へ】

◆今までは勉強は嫌だ嫌だと言っていたけど、勉強が思うようにできない国があるということを考えると、原さんが言っていたように恵まれているなと思いました。

◆「今から頑張れることがあるのだ」という、私にとって大切なことに気づくことができました。小さなきっかけから、海外でボランティアをするということはすごいことだと思います。私も今夢があるので、叶えるために努力していきたいと思います。

〔6〕児童・生徒の反応/変化

- ・特に現地の様子などのムービーを流した際には、身を乗り出して画面に釘付けになる生徒たちの姿が見られ、普段見られないような一面を見せてくれた生徒もいた。
- ・毎時間「文化」、「家族の形」、「防災教育」などテーマは変化するが、「自国である日本と比較して、どう違うだろう?」という視点が、生徒たちの中で磨かれている様子が、授業やワークシートの記入から感じ取られた。
- ・普段の生徒とのかかわりの中でも、海外に関する話題や、私自身の海外体験の話題が増え、関心をもって自ら質問してくる生徒の姿も多く見られた。

〔7〕授業実践の成果と課題

【成果】

- ・今回の研修を通して、私自身が興味をもっている海外の事柄について初めて授業を行ったが、「やはり授業者の気持ちや熱意は生徒たちにもしっかりと伝わるのだ」ということを身をもって感じる事ができた。
- ・「体験して得てきたこと」はやはり強みであり、大変説得力があることも感じる事ができた。「教師自身も生徒たちにとっての教材となることができる」という実感も、大変自信につながった。
- ・研修を通して習得した様々な開発教育の手法が、「いかに生徒たちの関心・意欲を高め、身になる学びをもたらすか」を学ぶことができ、自分の財産にもなった。

【課題】

- ・生徒に伝えたいことが多くなりすぎ、授業時間内に収まり切らないことがあった。
→「生徒に何を理解し、何を考えてほしいか」をよく吟味し、その上で「どのような授業の組み立て方が効果的か」を練り、内容を厳選する必要がある。
- ・養護教諭という立場であることから、担当授業の時間が限られており、「一单元の中で国際理解について学習を積み重ねていく」というよりも、「様々な学習の場面で、体験を盛り込む」という面が強かった。より継続的で系統的な学習ができれば、もっと生徒たちの国際理解に関する考えが深まったのではないと思われる。
→授業だけでなく、掲示物や保健指導など様々な場面でも、体験してきたからこそその研修の学びを取

り入れることで、生徒たちの視野や考え方を広げられると考える。よってこれからも、少しずつ継続して生徒たちに学びを伝えていきたい。

〔8〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・『平成24年度 教師海外研修報告書』 独立行政法人 国際協力機構 地球ひろば、2013年
- ・『開発教育実践ハンドブック 参加型学習で世界を感じる』 開発教育協会、2003年
- ・『新・中学保健体育の研究 保健分野』 学習研究社、2006年
- ・『教育技術 MOOK すぐ授業に使える 性教育実践資料集 中学校版』 財団法人 日本性教育協会、小学館、2007年
- ・『絵本 日本女性史1・2・3・4』 野村育世/著 石井勉/イラスト、大月書店、2010年

〔9〕使用教材(写真／図などの実物)

最後の問題 エルサルバドルクイズ第4問!

④下の写真はエルサルバドルの日常風景を写したものです。では彼らは何をしているところでしょうか?



- 1 スーパーの特売のために並んでいる。
- 2 ATM待ちのために並んでいる。
- 3 映画館の開館を待っている。

【エルサルバドルの特徴②】

エルサルバドルは20年前まで「内戦」が続く危険な国だった。いまだに**治安が悪く**、外国の民間企業もあまり入ってこない状況。



すべての銀行の門前には武装兵が立っています!

警察が街づくりに専らにいられていない!

【エルサルバドルの特徴②(続)】

資源にも乏しい国であることから、「働かなくても仕事がない」状況。

そこで**アメリカへ出張**に行く人がとっても多い!!
(エルサルバドルの人口/アメリカへの出張人口=622万人/195万人)

そのため、アメリカで働く家族からの入金を待つ人たちが、ATMの前で行列を作る...というわけです!



1時限目で使用した、「エルサルバドルクイズ④」のパワーポイント。

2時限目で使用した、ダイヤモンドグラフ。「男性と女性」、そして「日本とエルサルバドル」で生活時間の割合がどう違うかを見比べました。



〔10〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

たまたま同僚の先生から教えていただいたことで、今までの海外への思いが再燃し、参加を切望していたこの「教師海外研修」。実際に現地に足を運ぶことができただけでなく、効果的な授業の手法を習得することができたり、パッションあふれる先生方と出会うことができたり...と、本当に大切な財産を得ることができた。そして授業を実践したことで、「私自身の体験を生徒たちはなんとキラキラした目で聞いてくれるのだろう!」という、教師だからこそ感じられる喜びを改めて実感することができた。

「何も知らなければ、そのまま存在すらもわからず過ぎていってしまうこと」は、この世の中において非常に多い。しかし、ほんの少しでも「見たり」、「聞いたり」、「体験したり」したことで、生徒たちは「こんなに優しい人たちがたくさんいる国なんだ!」とか、「内戦があったのに、こんなに子どもたちの笑顔があふれていて楽しい国!」と感じてくれた。とにかく「知る」ということが、最初の一步であり、視野や考えを広げ深めていくために大事なのだと感じた。

生徒たちが垣根を越えて、異文化に対しプラスのイメージをもってくれたことに大変うれしさを感じたと同時に、今回の授業実践で「エルサルバドルが抱える課題・問題」、「本当のエルサルバドルの姿」について、しっかりと時間をかけて触れることができなかったという悔しさも残った。日本と諸国を比較することによって、「私たちはなんて恵まれているんだろう!」という思いをもたれてしまうのは心配だが、やはりマイナス面も目をそらさずに受け止めることで、「では自分たちに何ができるだろう?」という次のステップに踏み出すことができるのだと思う。この点については、これから国際理解や国際協力に関する教育を進めていく上で、私自身がもっと学習していかなければならない部分であると感じる。そして生徒たちが、世界が抱える課題・問題についても自らのこととして捉え、「自分の立場でできることに取り組

みたい！」という心を育てられるよう、有効な働きかけの仕方についても引き続き学んでいきたいと考える。